

子実用トウモロコシの栽培と推奨品種

都府県版

適切な播種期を守りましょう

早播きのメリット

子実収量は、早播きで最も高くなります。収量を確保するために、栽培地域に合った適期播種を行いましょう。

- ① 最も雌穂収量の高い栽培体系。
- ② 遅播きと比較して、栽培期間のアワノメイガ発生が少ない。
- ③ 梅雨時期の作業頻度を低減できる。
- ④ 比較的台風の襲来が少ない時期に収穫が可能のため、倒伏リスクを軽減できる。

<早播きした場合の播種適期と収穫期の目安>

早播き	播種期	収穫期の目安	RM *
東北・寒冷地	4月下旬～5月上旬	9月中下旬～10月上旬	90～115
一般地	4月上旬～5月上旬	8月下旬～9月上旬	110～120
西南暖地	3月下旬～4月下旬	8月中旬～8月下旬	110～120

平均気温で10℃が播種の目安です。早期播種の場合は遅霜にご注意ください。
地域の環境や気象条件の変動によって適期は前後する場合があります。
※RM（相対熟度）：トウモロコシの早晩性を表す指標です。数字が小さい方が早生品種になります。

生育個体数を確保しましょう

基本的な肥培管理の徹底は、収量の安定につながります。

- ◆ 湿害対策をしっかりと行いましょう。排水対策にはサブソイラによる心土破砕、暗渠、額縁明渠等が有効です。畑の利用計画に沿ってご検討ください。
- ◆ トウモロコシは比較的に酸性土壌に強い作物ですが、pHが極端に低い圃場では生育が悪くなります。土壌分析を行い、pHが5.5より低い圃場には炭カル等の石灰資材を散布すると土壌pHが改善します。
- ◆ 施肥管理は自治体の基準を参考にしましょう。
- ◆ 生育初期の苗立枯病による枯死や鳥害、虫害は欠株のリスクに繋がります。以下のポイントに配慮した栽培を行いましょう。
 - ① 未熟堆肥の施用を避ける。
 - ② 最適栽植密度よりやや多めに播種する。
 - ③ 均一な播種と鎮圧を徹底する。
 - ④ 種子にキヒゲンR-2フロアブルを塗抹処理する。
 - ⑤ 殺虫剤を利用する（クルーザー FS30、ダイアジノン粒剤、プレバソフロアブル5）。

除草剤を活用しましょう

トウモロコシは除草剤体系が確立している作物です。適期に適切な除草剤を利用することで雑草害のリスクを低減できます。

- ◆ 土壌処理剤
播種から出芽までに散布します。播種直後から雑草を抑えることで、肥料や水分、光の競合を軽減できます。
- ◆ 茎葉処理剤
トウモロコシの初期生育時に散布する除草剤です。トウモロコシが伸長した後は地面まで日光が十分に届かないため、新たな雑草の発芽や伸長が抑えられます。初期に雑草をしっかりと枯らすことができれば、生育後半まで雑草を抑えることが可能です。
※除草剤の種類によって防除できる雑草が異なります。圃場の状態に合わせた防除を行いましょう。
※詳しくは84～85ページをご参照ください。

品種選定において注意すべきポイント

栽培環境に適した品種選定を行い、品種能力を最大限発揮させましょう。

- ◆ 収穫期に完熟に達する品種を選択しましょう。
品種の早晩はサイレージ用トウモロコシのRM(相対熟度)を目安にしてください。
- ◆ 病害抵抗性、耐倒伏性品種を利用しましょう。
特に南方さび病が発生する地域では南方さび病抵抗性品種をご利用ください。早期に発生する地域では特に早めの播種を心掛け、病害激発前の収穫を心掛けましょう。
- ◆ 雌穂のカビ発生リスクの少ない品種を利用しましょう。

遅播きについて

弊社では早播きでの栽培を推奨しておりますが、輪作体系などによっては遅播きを選択されることが予想されます。遅播きでの栽培にあたっては以下の考慮すべきリスクを把握した上でお試しください。

- ◆ 栽培期間中の病害リスクが大きいため、病害抵抗性の高い品種の利用が必須です。
- ◆ 遅播きでは中生品種の利用が一般的ですが、播種期が遅くなると登熟不足による子実の品質低下を招く恐れがあります。
- ◆ 栽培期間が台風の時節と重なるため、倒伏リスクが高まります。
- ◆ 早播きと比較して不稔が出やすく、低収量となる可能性があります。
- ◆ アワノメイガの発生が最も多い時期での栽培となります。アワノメイガによる食害は雌穂柄の折損やカビの発生原因となります。

推奨品種のご紹介

サイレージ用品種のラインナップの中から子実用としても利用できる品種を以下にご紹介いたします。
栽培方法はサイレージ用トウモロコシに準じます。

カビの発生リスクの少ない早生品種を推奨しております

トウモロコシ

早生品種【RM105】

スノーデント105 品種 (LG2533)



◆寒冷地の栽培に適する。
◆早期の収穫が可能。
◆子実収量に優れる。

最適栽植本数：
7,500本/10a

トウモロコシ

早生品種【RM110】

スノーデント110 品種 (LG30500)



◆広域適応性に優れ、安定した収量性。
◆雌穂収量に優れる。
◆耐病性に優れる。
◆苗立枯病と考えられる枯死症状が少ない。

最適栽植本数：
7,000～7,500本/10a

遅播きで栽培される場合は中生品種の利用をご検討ください

トウモロコシ

早中生品種【RM118】

スノーデント118R 品種 (SH5702)



◆雌穂収量が安定多収な子実型。
◆耐病性に優れる。
◆耐倒伏性に優れる。
◆不稔割合が少ない。

最適栽植本数：
7,000～7,500本/10a

トウモロコシ

中生品種【RM125】

スノーデント125T 品種 (SH2821)



◆早播き～遅播きの適応性を備える。
◆耐病性に優れる。
◆デント×フリントタイプ。

最適栽植本数：
6,500～7,000本/10a

飼料用トウモロコシ生産におすすめの植物活力資材

種子に粉衣して使う活力資材

「閼根 ネチからアップ」



特徴

乳脂固着液を材料にした成分の働きで、植物の発芽・初期生育を助けます。

使い方

播種前の種子に「ネチからアップ」を種子重量の0.3%粉衣してください。
(例: 種子1kgに対して「ネチからアップ」3gを粉衣)
※種子粉衣タイプの農薬と混用・同時施用が可能です。
※液状タイプの農薬の場合、農薬を処理した後、十分に乾いてから「ネチからアップ」を粉衣してください。



「ネチからアップ」粉衣、および殺虫・忌避剤処理後は乾燥を十分に行い、播種期のホッパーへの投入時には余剰の粉や種皮の剥離物などを入れないようにしてください。
「ネチからアップ」を播種機のホッパーに直接投入して粉衣した場合、効果が不安定になる場合があります。

葉面散布して使うアミノ酸液肥

「即効アミノ332」



特徴

豊富な種類のアミノ酸が、植物に吸収されやすい遊離型で含まれており即効性があります。

使い方

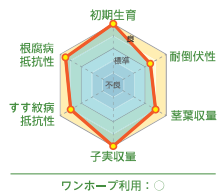
原液100~200ml/水100L (500~1,000倍希釈) で葉面散布してください。飼料用トウモロコシには、アミノ酸生成阻害系除草剤との混用も可能です。

雪印種苗のアミノ酸液肥は、分岐鎖アミノ酸 (リシン・ロイシン・イソロイシン) をはじめ、作物がストレスを感じたときに必要なプロリンなどのアミノ酸を豊富に含んでいて、トウモロコシの安定した生育を助けます。

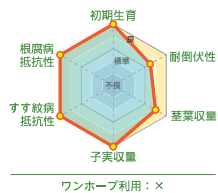


除草剤散布時にアミノ酸液肥を1,000倍希釈で混用して葉面散布

◎大柄で収量性に優れる極早生品種！



◎大柄で耐病性に優れる90日！



トウモロコシ



ネオデント・エスパス95 (SL0746)

極早生 (RM95)

規格

3,500粒/袋
50,000粒/袋



雪印種苗育成品種

◎耐倒伏性に優れる安定多収な95日！



- 品種特性**
- 黒穂病抵抗性に優れ、耐倒伏性に優れる。
 - 実入りが良くTDN収量が多収。

播種期 東北部・寒冷地 5月上旬～5月中旬

早春播種の場合は遅霜にご注意ください。

播種量 8,000本/10a

■ネオデント・エスパス95 (品種SL0746) の成績

場所	稈長 cm	着穂高 cm	熟度 表示	生収量				総体 乾物率 %
				総体 kg/10a	総体 kg/10a	茎葉 kg/10a	穂粒 kg/10a	
盛岡試験地	253	91	黄後	4,673	1,692	776	916	36.6
那須試験地	274	98	黄中後	5,732	1,929	868	1,061	33.7

2020、2022年 弊社盛岡試験地
2021、2022年 弊社那須試験地

トウモロコシ

ニューデント100 (LG3457)

極早生 (RM100)

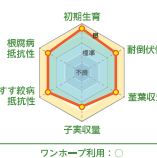


規格

3,500粒/袋
50,000粒/袋



※マス目5cm



◎長稈で茎葉多収な耐倒伏性品種！



- 品種特性**
- 豊富な茎葉と大型な草姿。
 - 極早生でも早生品種並みの多収品種。
 - 実入りが良い、長穂が特色。
 - 耐倒伏性に優れる。
 - すず紋病抵抗性に優れる。

播種期 東北部・寒冷地 5月上旬～5月中旬

東中部・南部 4月下旬～5月上旬

早春播種の場合は遅霜にご注意ください。

播種量 7,500本/10a

■ニューデント100 (品種LG3457) の成績

場所	稈長 cm	着穂高 cm	熟度 表示	生収量				総体 乾物率 %
				総体 kg/10a	総体 kg/10a	茎葉 kg/10a	穂粒 kg/10a	
盛岡試験地	279	106	黄中	5,581	1,930	1,028	902	34.5
那須試験地	295	102	黄初中	5,648	1,914	989	925	33.9

2020、2022年 弊社盛岡試験地
2021、2022年 弊社那須試験地

トウモロコシ

ニューデント105 (LG2533)



規格
3,500粒/袋
50,000粒/袋

早生 (RM105)

◎耐倒伏性、耐病性に優れ 雌穂稔実良好の乾物多収品種!



品種特性

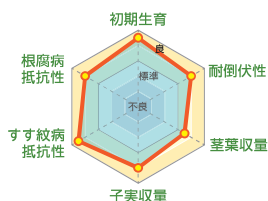
- 子実割合が多く、高TDNサイレー
ジが期待できる。
- ごま葉枯病、すす紋病抵抗性に優れ、
病害多発地帯に適する。
- 耐倒伏性に優れる。

播種期

東北北部・寒高冷地	5月上旬～5月中旬
東北中部・南部	4月下旬～5月上旬

早春播種の場合は遅霜にご注意ください。

最適栽培本数 7,500本/10a



※マス目5cm

ワンホープ利用：○

ニューデント105 (LG2533) の成績

場所	稈長 cm	着穂穂高 cm	熟度 表示	生収量		乾物収量		乾物率 %
				総体 kg/10a	穂体 kg/10a	総体 kg/10a	穂体 kg/10a	
盛岡試験地	255	93	黄初-中	5,500	1,780	839	940	32.6
那須試験地	269	101	黄中	6,071	1,975	848	1,126	32.4

2020・2022年 弊社盛岡試験地
2021・2022年 弊社那須試験地

トウモロコシ

LG3490



規格
3,500粒/袋
50,000粒/袋

早生 (RM108)

◎初期生育に優れ、ごま葉枯病、すす紋病抵抗性に優れる!
110日クラス並の乾物収量性!



品種特性

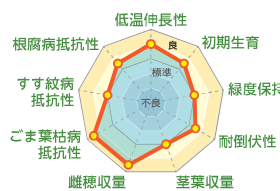
- 茎葉と子実のバランスがよい。
- ごま葉枯病、すす紋病抵抗性に優れ
る。
- 苗立枯病と考えられる生育初期の
枯死症状が少なく(弊社宮崎試験
地)。
- 耐倒伏性に優れる。

播種期

東北北部・寒高冷地	5月上旬～5月下旬
東北中部・南部	4月下旬～5月上旬
一般地	4月上旬～4月下旬
西南暖地	3月下旬～4月中旬

早春播種の場合は遅霜にご注意ください。

最適栽培本数 7,000～7,500本/10a



※マス目5cm

ワンホープ利用：○

品種LG3490の成績

場所	稈長 cm	着穂穂高 cm	熟度 表示	生収量		乾物収量		乾物率 %
				総体 kg/10a	穂体 kg/10a	総体 kg/10a	穂体 kg/10a	
盛岡試験地	268	102	黄中	5,844	1,848	830	1,018	33.0
那須試験地	303	118	黄後	5,766	1,976	777	1,199	34.4

2017～2018年 弊社盛岡試験地、2016～2018年 弊社那須試験地

スノーデント110 (品種LG30500)

早生 (RM110)

規格
3,500粒/袋
50,000粒/袋◎長稈で茎葉ボリュームに富む
多収品種!

品種特性

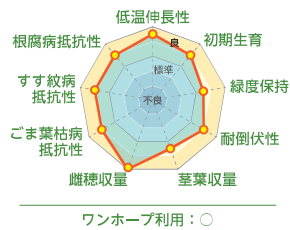
- 長稈で、茎葉ボリュームあり、乾物多収。
- ごま葉枯病、すす紋病抵抗性に優れる。
- 苗立枯病と考えられる生育初期の枯死症状が少ない(弊社宮崎試験地)。

播種期

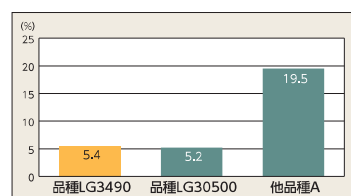
東北北部・寒高冷地	5月上旬～5月下旬
東北中部・南部	4月下旬～5月下旬
一般地	4月上旬～4月下旬
西南暖地	3月下旬～4月中旬

早春播種の場合は遅霜にご注意ください。

最適栽培本数 7,000～7,500本/10a



※マス目5cm



苗立枯病と考えられる生育初期の枯死個体の割合 (%)



苗立枯病と考えられる枯死個体の割合 (弊社宮崎試験地)

スノーデント110 (品種LG30500) の成績

場所	稈長 cm	着穂標高 cm	熟度 表示	生収量 総体 kg/10a	乾物収量 総体 kg/10a	雌穂 kg/10a	乾物率 総体 %
盛岡試験地	279	122	黄初～中	7,627	2,327	1,165	31.4
那須試験地	314	134	黄後	6,291	2,064	834	32.8

2017～2018年 弊社盛岡試験地、2017～2018年 弊社那須試験地

スノーデント115 (品種LG31.588)

早生 (RM115)



新発売

規格
3,500粒/袋
50,000粒/袋

◎ボリュームと耐倒伏性を兼ね備えた多収品種新発売!



品種特性

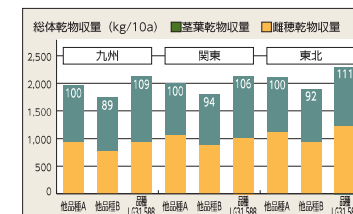
- 長稈の大型品種で、雌穂、茎葉ともに乾物多収。
- 耐倒伏性に優れる。
- ごま葉枯病、すす紋病抵抗性に優れる。
- 苗立枯病と考えられる生育初期の枯死症状が少ない(弊社宮崎試験地)。

播種期

東北北部・寒高冷地	5月上旬～5月下旬
東北中部・南部	4月下旬～6月上旬
一般地	4月上旬～5月上旬
西南暖地	3月下旬～4月下旬

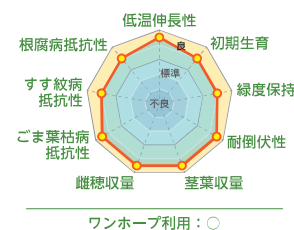
早春播種の場合は遅霜にご注意ください。

最適栽培本数 6,500～7,000本/10a

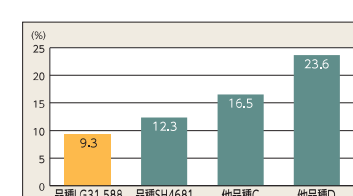


品種LG31.588の乾物収量性

※九州: 2017-2020年の6試験平均、関東: 2017-2020年の11試験平均、東北: 2017-2020年の4試験平均



※マス目5cm



苗立枯病と考えられる生育初期の枯死個体の割合 (%)

スノーデント115 (品種LG31.588) の成績

場所	稈長 cm	着穂標高 cm	熟度 表示	生収量 総体 kg/10a	乾物収量 総体 kg/10a	雌穂 kg/10a	乾物率 総体 %
盛岡試験地	311	139	黄初-中	7,093	2,237	1,110	31.5
那須試験地	328	132	黄初	7,514	2,051	1,013	27.3
宮崎研究農場	295	129	黄初	7,132	1,844	1,027	26.0

2019, 2020, 2022年 弊社盛岡試験地、2019, 2021, 2022年 弊社那須試験地、2019～2022年 弊社宮崎研究農場: 宮崎県



苗立枯病と考えられる枯死個体の割合 (弊社宮崎試験地)

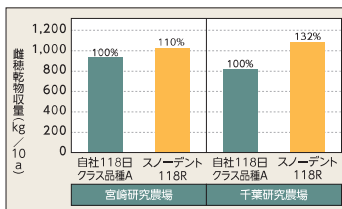
トウモロコシ

スノーデント118R^{品種} (SH5702)

早中生 (RM118)

規格
3,500粒/袋
50,000粒/袋

**◎耐病性に優れる
子実安定多収な品種!**

スノーデント118Rの雌穂の乾物収量
2016～2017年 弊社宮崎研究農場、千葉研究農場

品種特性

- すず紋病、ごま葉枯病抵抗性に優れる。
- 雌穂乾物収量が安定多収な子実型の品種。

播種期

東北北部・寒高冷地	5月上旬～5月中旬
東北中部・南部	4月下旬～6月上旬
一般地	4月上旬～5月下旬
西南暖地	3月下旬～4月下旬

早春播種の場合は遅霜にご注意ください。

最適栽植本数 7,000~7,500本/10a



※マス目5cm

■スノーデント118R(品種SH5702)の成績

場所	桿長 cm	薈莖標高 cm	熟度 表示	生収量	乾物収量			乾物率 総体 %
				総体 kg/10a	総体 kg/10a	莖葉 kg/10a	薈株 kg/10a	
那須試験地	308	135	黄中	7,527	1,981	858	1,123	26.4
宮崎研究農場	243	120	黄初・中	7,240	1,997	968	1,029	27.7

2016～2018年 弊社那須試験地、2016～2017年 弊社宮崎研究農場

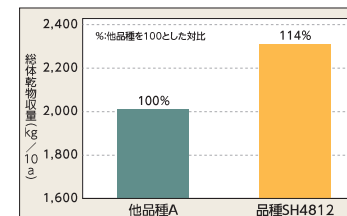
トウモロコシ

スノーデントSH4812^{品種}(SH4812)

中生 (RM125)

規格
3,500粒/袋
50,000粒/袋

◎大きな雌穂の
乾物多収の中生品種!



RM125クラス総体乾物収量性
2013～2015年 弊社那須試験地 4月下旬播き

品種特性

- 初期生育良好!
- ボリューム感のある大型品種。
- 大きな雌穂の乾物多収品種。

西南暖地(主に九州地域)では、RM120程度の熟期を示すことから、二期作体系の1作目としてもご利用いただけます。

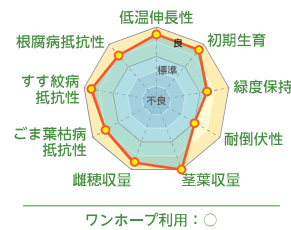
播種期

東北中部・南部	4月下旬～6月上旬
一般地	4月上旬～5月下旬
西南暖地	3月下旬～5月上旬

早春播種の場合は遅霜にご注意ください。

最適栽植本数 6,000~6,500本/10a

※大柄な品種のため、畦間、株間は広めがおすすめです。



※マス目5cm

■スノーデントSH4812(品種SH4812)の成績

場所	稈長 cm	箬雄穂高 cm	熟度 表示	生収量	乾物収量			乾物率 %
				総体 kg/10a	茎葉 kg/10a	雌穂 kg/10a		
那須試験地	329	151	黄中	8,654	2,371	1,173	1,199	27.8
宮崎研究農場	269	126	黄初・中	6,555	1,988	1,217	771	30.3

2016～2018年 弊社那須試験地、2016～2017年 弊社宮崎研究農場

トウモロコシ

スノーデント125T (SH2821)

中生 (RM125)

規格
3,500粒/袋
50,000粒/袋

◎耐病性に優れ
総体乾物多収の大型中生品種!



品種特性

- ごま葉枯病、すす紋病抵抗性に優れる。
- 乾物多収の中生品種。

播種期

東北中部・南部	4月下旬～6月上旬
一般地	4月上旬～7月下旬
西南暖地	3月下旬～5月中旬

早春播種の場合は遅霜にご注意ください。

最適栽培本数 6,500～7,000本/10a



※マス目5cm

スノーデント125T(品種SH2821)の成績

場所	穂長 cm	着穂穂高 cm	熟度 表示	生収量	乾物収量			乾物率 %
				総体 kg/10a	総体 kg/10a	茎葉 kg/10a	雌穂 kg/10a	
那須試験地	316	157	黄初・中	8,617	2,094	1,120	974	24.8
宮崎研究農場	250	131	黄中	6,521	1,885	1,045	840	28.9

2016～2018年 弊社那須試験地、2016～2017年 弊社宮崎研究農場

トウモロコシ

スノーデントおとは (PI2008)

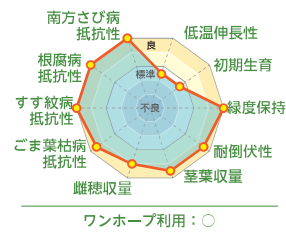
中生 (RM127) 農林水産省品種登録 第25538号 PVP 海外輸出禁止 (農林水産大臣公告第1号)

規格
3,500粒/袋
50,000粒/袋

◎耐倒伏性、南方さび病抵抗性に優れる
乾物多収品種!



雪印種苗育成品種



品種特性

- 幅広い播種期間に対応可能(極端な早播きはお控えください)。
- 耐倒伏性に優れる。
- 南方さび病抵抗性に優れる。
- 乾物多収な品種。

播種期

一般地(西日本)	5月上旬～7月下旬
西南暖地	4月中旬～8月上旬

※関東地区で播種する場合は最寄りの営業所にご相談ください。

最適栽培本数 6,500本/10a

利用上の注意点

※高温となる日(最高気温30℃以上)、または7～8月播種体系でのワンホープ乳剤のご使用は避けてください。

スノーデントおとは(品種PI2008)の成績

場所	穂長 cm	着穂穂高 cm	熟度 表示	生収量	乾物収量			乾物率 %
				総体 kg/10a	総体 kg/10a	茎葉 kg/10a	雌穂 kg/10a	
都城試験地	246	115	黄初	6,619	1,816	973	843	27.7
熊本試験地	217	90	黄初	5,092	1,359	836	523	26.7

2016～2018年 弊社都城試験地5月播き、2016～2018年 弊社熊本試験地夏播き

雪印種苗

トウモロコシ

スノーデント^{なつ}夏皇^{あう} 品種 (SH2933)

晩生 (5月播き～二期作利用)

西日本地区
限定

規格
3,500粒/袋
50,000粒/袋

◎フラビー萎縮症抵抗性、耐倒伏性に優れ
ボリューム感のある草姿で多収を実現!

詳しい情報は
「牧草と園芸」をご覧ください。



品種特性

- ポリウム感のある茎葉型品種。
- 耐倒伏性に優れる。
- 高い乾物収量。
- ワラビー萎縮症抵抗性に優れる。

播種期

西南暖地 5月中旬～8月上旬

最適栽植本数 6,500本/10a

利用上の注意点

※ワンホープ乳剤のご使用は避けてください。莖葉処理剤
をご利用の際はアルファード液剤をご利用ください。

夏播きでの乾物率

	乾物率(%)		
	莖葉	醃漬	総体
スノーデント夏皇	25.3	47.3	30.5
他品種	21.4	47.0	27.9

2014～2015年の富嶺研究農場、都城現地試験、および熊本試験地の平均値。



ワラビー委縮症発生圃場(2013年宮崎県串間)

■スノーデント夏皇(品種SH2933)の成績

場所	桿長 cm	蒔飯穂高 cm	熟度 表示	乾燥物収量				乾燥率 総体 %
				生収量 kg/10a	総体 kg/10a	茎葉 kg/10a	糠糠 kg/10a	
都城試験地	224	128	黄初	6,006	1,620	999	620	27.7
熊本試験地	213	121	糊後	5,347	1,429	912	517	26.7

2016～2018年 弊社都城試験地5月播き、2016～2018年 弊社熊本試験地夏播き

販売予告

**2025年
新発売**

トウモロコシ



スノーデント^{すこ}凄夏^か 品種 (SM6343)

中生 (RM126)

**◎雪印種苗のフルシーズンが帰ってくる！
播種期を問わず安定した生育と収量性！**



品種特性

- 長稈で茎葉ボリュームがあり、乾物多収。
- 初期生育、耐倒伏性に優れる。
- 苗立枯れ症状の発生が少ない。
- ワンホープ乳剤利用可※。

播種期

一般地	4月中旬～7月中旬
西南暖地	4月上旬～8月上旬

最適栽植本数

6.500本/10a



※高温となる日（最高気温30℃）及び7～8月播種体系でのワンホープ乳剤のご使用は避けてください。

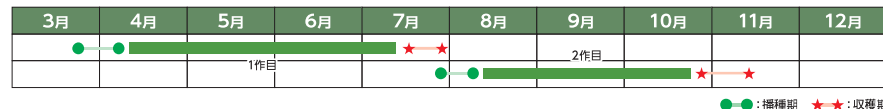
トウモロコシの二期作栽培について

トウモロコシの二期作栽培とは？

1作目に通常の早播き栽培を行い、1作目収穫後の7月下旬から8月上旬までに2作目の夏播き栽培を行い、トウモロコシを年に2回収穫する栽培体系です。有効積算温度が高い西南暖地を中心に行われています。



二期作栽培体系



適切な播種時期とは？

1作目は通常の早播き栽培を行います。2作目の播種適期前に収穫できるように3月下旬～4月上旬までには播種を行いましょう。栽培期間は3月下旬～7月下旬です。2作目は開花期以降の登熟期が気温が低下する秋となるため、いかに早く開花させて登熟期間の温度を確保するかが重要です。適期収穫のためには7月下旬播種が理想的ですが、8月上旬までのできるだけ早い時期に播種を行いましょう。栽培期間は7月下旬～11月頃です。

適切な品種選定

1作目：上述した播種適期で7月中～下旬に収穫可能なRM100～115の品種を選定しましょう。地域によってはRM120クラスの栽培も可能ですが、気象条件によっては収穫時期が遅れる可能性があります。詳しくは、お近くの営業所にお問合せください。

2作目：気温が最も高い時期の播種になる為、南方さび病やワラビー萎縮症の発生リスクが高まります。RM125以降の中生～晩生の耐病性に優れる品種を選定しましょう。早生～早中生の品種は生育初期の高温により短程出穂し、また耐病性も劣るため収量は見込めません。
推奨品種：スノーデントおとは、スノーデント夏皇、スノーデント125T※
(※南方さび病発生リスクの少ない一般地で利用可)

各推奨品種の特性については、掲載ページをご覧ください。

2作目での省力的栽培（不耕起栽培）

2作目で不耕起播種を行う事で、耕起作業を省略することが出来ます。1作目で残る雑草対策として、播種前にグリホサート系の除草剤を散布します。

注）前作の残渣や雑草が多い場合、不耕起播種機に草が絡むなど播種作業が困難になる場合があります。1作目での適切な雑草管理が重要です。

ツマジロクサヨトウに要注意！

2作目（夏播き栽培）の生育初期に最も発生リスクが高く、甚大な被害を受ける場合があります。登録農薬を手上使用し、適切な防除を行ってください。

ツマジロクサヨトウに関しては、次項のトピックスをご覧ください。

2作目で登熟期まで進まなかったら？

天候による播種作業の遅れや、適期播種を行った場合でも、冷夏など生育期の気象条件による生育の遅延により、収穫適期の黄熟期まで登熟が進まない場合があります。その場合、高水分でのサイレージ調整となりますが、弊社乳酸菌資材のサイマスターシリーズの利用によりサイレージ品質の低下を防ぐことが出来ます。詳しくは、P74～77のサイマスターシリーズ掲載ページをご覧ください。

トピックス

ツマジロクサヨトウに注意！



2019年、国内で初めて発生が確認されたツマジロクサヨトウの被害拡大が危惧されています。早期発見と適切な防除に努めましょう。農薬による防除に際してはツマジロクサヨトウに使用可能な登録農薬であるBT水和剤（デルフィン顆粒水和剤・チューレックス顆粒水和剤・ジャックポット顆粒水和剤など）、パダンSG水溶剤などを各農薬の使用方法に従ってご利用ください。



トピックス

ワラビー萎縮症とは？

1998年頃から九州の一部を中心にトウモロコシの二期作栽培で問題になっている病気です。罹病すると株が萎縮し、葉裏面の葉脈が隆起し葉色がやや濃くなります。また、葉の長さが極端に短くなり、罹病した葉はオーストラリアで有名なワラビーの耳に似ていることからこの病名の由来となっています。原因はフタテンチビヨコバイというヨコバイの一種が、トウモロコシに付着し吸汁した時に何らかの物質が注入されることで起こるとされています。ワラビー萎縮症は、温暖化が影響した新たな病害で、今後更に、発生地域が広がることが懸念されます。



スノーデント夏皇で
ワラビー萎縮症対策！！

トピックス

近年被害が増えている トウモロコシ苗立枯れ症状の傾向と対策

近年春播きトウモロコシ播種後の「苗立枯れ症状」による被害が各地で多発しています。発生要因は多岐にわたり、下表のような複合的な要因で発生していると考えられます。これらを一一つ改善していくことによって、その被害を予防し軽減することができます。



苗立枯れ症状の考えられる原因と症状

主な病原菌：ピシウム菌（5種のピシウム属菌が関与）、フザリウム菌、リゾクトニア菌など

主な病徴：トウモロコシ播種後、胚又は胚乳が侵され、腐敗して全く発芽しないか、発芽しても幼苗時に枯死する。

考えられる発生要因	影響・症状等	具体的な対策例
多雨・豪雨による 滞水・冠水	●病原菌の増加 ●酸欠による根腐れ、光合成の低下による生育遅れ	●排水対策を行う（サブソイラやプラウ耕の実施、明渠の利用） ●「キビゲンR-2フロアブル」の利用で軽減
春先の低温 (気温15℃以下)	●低温菌が活性化（ピシウム菌の場合が多い）し、トウモロコシに感染しやすくなる ●トウモロコシの生育遅れ	●気温の上がる5月上旬に播種する（低温期の播種を避ける）
生堆肥や前作の 残渣による害	●気温の上がる4月頃に分解が進む ・分解菌の増加 → 立枯れの発生助長 ・分解するために土壌菌がチッソを消費 チッソ飢餓 → トウモロコシの生育遅れ、軟弱化	●堆肥は早めに散布し腐熟させる 特に生堆肥は冬季中に散布・耕起する ●前作の残渣は早めに鋤きこむ（丁寧な耕起作業を心がける）
肥培管理 (特に播種時)	●極端な深植…発芽し難い状態で、菌に侵され易い ●過剰な鎮圧…特に土壌水分が高い場合は注意	●適正な播種深度になるように調整する ●土壌水分が高い時は過度な鎮圧は控え、重さも軽く調整する

